

(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

大鹿村

No.	事業項目	事業名
1	木を活かした力強い 産業づくり	公共施設木質化事業
事業費		618,000 円 (うち支援金: 440,000 円)

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

大鹿村として、地元産材の活用を推進していくについて、日々の生活において木と触れ合う機会を設け、地元産材を身近に感じてもらうことが必要である。以前より、地元住民をはじめ村を訪れる人々の身近な窓口となる役場庁舎をはじめ公共施設において木質化を進めてきているが、さらなる取り組みが必要である。

(2) 本事業の目的

役場庁舎において大鹿産カラマツによる木製イス・机・プランターを導入することにより、従来にも増して来庁する人々に木と触れ合う機会を与え、人々に地域材を PR する。

事業内容

(1) 実施場所 大鹿村大河原 354 大鹿村役場

(2) 対象 大鹿村役場来庁者

(3) 実施方法 大鹿産カラマツを利用した、木製イス・机・プランターの導入

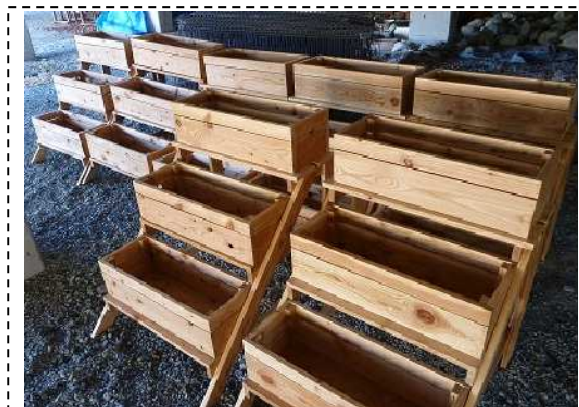
(4) 事業目標及び当年度事業量

全体計画 (令和 2 年度)

令和 2 年度実績 公共施設における木製イス・机・プランターの導入



大鹿産カラマツ製イス・机



大鹿産カラマツ製プランター

事業効果

(1) 事業実施の効果

役場庁舎において大鹿産カラマツによる木製イス・机・プランターを導入することにより、県産材の普及啓発ができた。

(2) 継続性

事業としては単年度となるものの、役場庁舎において大鹿産カラマツによる木質化を図ることにより、県産材のPRは継続的に実施できる。

(3) 普及性

木質イス・机・プランターの導入により、役場庁舎を訪れる人々に、県産材の魅力を伝えることができる。また、広報誌等でPRを行う。

事業の検証及び評価

(1) 目標に対する成果の状況

役場庁舎に訪れた人々が使用する。

(2) 課題

木質プランターは、水気により劣化が早まらないよう、防水処理等定期的にメンテナンスを行う必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

事業内容を見直して継続する

今後は役場庁舎以外の公共施設について、必要により木質化に取り組んでいく。

事業を継続しない

令和2年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	大鹿村
------	-----

No.	事業項目	事業名
2	木を活かした力強い 産業づくり	薪ステーション整備事業
事業費		706,200 円 (うち支援金: 447,000 円)

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

当村は村内の森林・原野面積が全体の97%を占めており、H30年度に「道の駅大鹿」が開駅し、昨年度には塩の里直売所が改修された。いずれの公共施設でも薪ストーブを導入し、木材の利用促進やPRを住民のみならず、観光客にも行っている。

昨年度、当該支援金事業により薪置き場として薪ステーションを設置した。今後薪ストーブ等の普及を進める中、薪の供給需要に対応した薪の効率的なストック・運搬及びそのための床面の舗装が必要となる。

(2) 本事業の目的

当該支援金事業で昨年度整備した薪ステーションについて、薪ラックの導入により、薪のストック・運搬の作業がスムーズに行える。また、未整備の床面をコンクリート舗装することにより、薪ラックでの運搬による轍掘れが予防でき、薪のストック・運搬がスムーズに行える。

事業内容

- (1) 実施場所 大鹿村大字鹿塩 2603-1 「大鹿村木工体験交流施設」
- (2) 対象者 薪購入者
- (3) 実施方法 「大鹿村木工体験交流施設」の薪ステーションに薪ラックを導入するとともに、床面を舗装整備する。
- (4) 事業目標及び当年度事業量
 - ①全体計画 (令和元～2年度)
 - 令和元年度＝薪ステーション設置
 - 令和2年度＝薪ラックの導入・薪ステーションの舗装
 - ②令和2年度実績 薪ラックの導入・薪ステーションの舗装



薪ラックの導入



薪ステーションの舗装

事業効果

(1) 事業実施の効果

薪ステーションの整備を行うことで、道の駅・塩の里といった村内外から多くの人を訪れる場所での薪の安定供給を行うことにより、薪による温かさを感じてもらえる体制を整えることができた。

(2) 継続性

薪ステーションを整備することにより、今後継続的に薪を公共施設に提供することができ、薪や薪ストーブ等のPRを行っていく。

(3) 普及性

木工体験交流施設で住民の目の届くところで保管をし、道の駅や塩の里で利用することにより村民や観光客にも薪の利用についてPRをすることができる。

事業の検証及び評価

(1) 目標に対する成果の状況

薪ステーションの舗装整備・薪ラックの導入ができ、効率的に薪のストックが行えるようになった。

(2) 課題

薪をストックするための薪ステーションの整備はできた。今後は薪の材料となる木材の安定供給に向けた体制づくりを検討していく必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

事業内容を見直して継続する

事業を継続しない

薪ステーション整備は完了

令和2年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

大鹿村

No.	事業項目	事業名
3	木を活かした力強い 産業づくり	木橋補修・手摺設置事業
事業費	396,000 円	(うち支援金: 196,000 円)

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

大鹿村は村内の森林・原野面積が全体の97%を占めており、森林内に多くの観光名所が存在する。その一つが「樽本の滝」である。

昨年度当該事業により滝に通じる遊歩道の木橋の設置を行ったが、本年7月の豪雨災害により木橋と遊歩道の間に空隙ができたことから、現在遊歩道の使用を禁止している。

(2) 本事業の目的

上記の状況を踏まえ、木橋を補修するとともに、一部老朽化している手摺を整備することにより、安心安全な遊歩道とし、森林を触れ合える場所を整備することで、観光客や地域住民にも改めて森林の良さをPRする。

事業内容

- (1) 実施場所 大鹿村大字鹿塩 1528-22 樽本の滝
- (2) 対象者 観光客、地域住民
- (3) 実施方法 R2年7月の豪雨により破損した木橋の補修・手摺設置
- (4) 事業目標及び当年度事業量
 - ①全体計画（令和2年度）
令和2年度＝木橋の補修及び遊歩道の手摺整備
 - ②令和2年度実績
木橋の補修及び遊歩道の手摺整備



施工前



施工後

事業効果

(1) 事業実施の効果

本年7月より通行できなくなっている遊歩道の整備を行うことにより、再び森林と触れ合える場が提供できる。

また県産材を用いて施設整備することにより、県産材のPRにも繋げることができた。

(2) 継続性

事業としては単年度となるものの、観光名所である樽本の滝の遊歩道を整備することにより、県産材のPRは継続的に実施できる。

(3) 普及性

木橋・手摺に県産材を用いることにより、当地に訪れる多くの人に県産材の魅力を伝えることができる。また、広報誌等でもPRをおこなう。

事業の検証及び評価

(1) 目標に対する成果の状況

観光名所である樽本の滝について、昨年7月豪雨で被災した遊歩道の木橋・手摺を、県産材を用いて復旧することができた。

(2) 課題

遊歩道が復旧したものの、豪雨の際に河川護岸が洗堀され地形が不安定であることから、関係部署と連携して十分な安全対策を行ったうえで施設を開放する必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

事業内容を見直して継続する

事業を継続しない

遊歩道整備は完了